

よりよいパートナーを目指して

名古屋林業土木協会古川支部 やなぎ 柳 しちろう 七郎
名古屋林業土木協会岐阜支部 いそぎみ 五十君 まさひと 正人

要旨

法人改革の中、より公益的な活動が求められたことから、中部森林管理局の制度を通じ、国民の森林づくりの推進、地域振興に向けた社会貢献活動を実施しました。

当初は国有林とのパートナーと位置づけ国有林をフィールドとした社会貢献活動を実施しましたが、取り組みを進める中、国有林と地域を結ぶ活動として地域とのパートナーとしても位置づけ、活動のキャッチフレーズを「よりよいパートナーを目指して」としました。

こういった取り組みは、建設業の担い手不足といった中で、担い手3法にもみられる建設業のイメージアップにつながり、地域の雇用確保につながればと考えています。

1 取り組みのきっかけ

協会は会員のもつ技術などを生かした災害時における応急対策や国有林内での社会貢献活動などに取り組んできましたが、平成18年には公益法人制度改革の法律ができるなど、とりまく環境が大きく変化し、法人移行に向けより公益的活動の見える化が求められてきました。

このような中で平成19年6月に美しい森林づくり推進国民運動が始まり、平成20年12月からは運動を実践する個人・団体を一層拡大・浸透することを目的にフォレスト・サポーターズへの登録が始まりました。

時を同じくして、中部森林管理局では平成21年1月に「森林・林業社会貢献活動に進んで携わる者に対する感謝状の贈呈」の取り組みが始まりました。

私たちはこういった取り巻く環境の変化を取り組みのきっかけとして、フォレスト・サポーターズに団体登録し、より組織的な取り組みとするために、協会の内部組織である「安全・技術対策委員会」、「環境・社会貢献委員会」及び「青年部」といった組織体制により取り組んできました。

2 取り組みのコンセプト

中部森林管理局における「森林・林業社会貢献活動に進んで携わる者に対する感謝状の贈呈」の制度は、その目的を「感謝の意を表し、活動を奨励することを通じて、国民の森林づくりを推進するとともに、地域振興に寄与するものとする」とされています。

そしてこの感謝状の対象は「防災協力」、「森林づくり」、「地域連携」の3つの部門となっております。

協会ではこの制度と美しい森林づくり推進国民運動を重ね合わせる中、国有林には自然休養林をはじめとするレクリエーションの森制度のように、国有林が地域の貴重な自然財産であったり観光資源であるなど、地域振興のうえで大切な資源であることに着目し、「国有林と地域を結ぶ」をコンセプトとして、レクリエーションの森林を中心に活動することを通じ、地域振興への寄与にも取り組むことにしました。

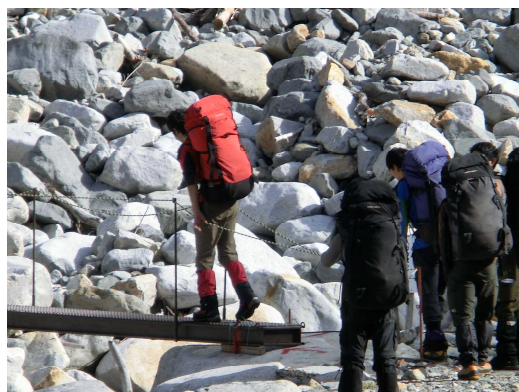
また、協会は公共事業の受注など国有林と利害関係がある立場であることから、活動にあたってはよりオフィシャルな活動を心掛けるとともに、活動の透明性、広報として美しい森林づくり推進国民運動のHPに活動を掲載するよう取り組んできました。

3 取り組みの紹介

活動は極力各支部を単位に実施しましたので紹介させていただきます。



富山支部では富山森林管理署、立山地域の多様な団体とともに霊峰立山にある美女平の散策歩道にウッドチップを撒くために、チップ製作と運搬などに協力しました。



神岡支部は奥穂高岳の白出沢に関係者の要請を踏まえ仮設橋を設置し、登山者の安全確保に協力しました。橋は緊急の救助活動にも使われ感謝されています。



古川支部は貴重な自然が残る天生県立自然休養林の高層湿原の保全に向けた木道整備に取り組みました。



久々野・高山支部では御嶽山のふもとで災害復旧箇所の緑化に取り組むほか、高山市を流れる清流「宮川」の源流域である川上岳の登山道整備に取り組んでいます。この登山道は源流の最初の一滴が体感できる歩道をとという地域の希望から取り組み、グリーンツーリズムなどでも活用されています。



荘川支部では飛騨白山・白川郷自然休養林において散策歩道の刈払や子供たちがふるさとの宝もの再発見の取り組みに協力するなど、国有林と地域を結ぶ取り組みに協力しました。

協会はよりオフィシャルな取り組みを目指し同自然休養林の活動協定を締結しました。



小坂支部は地域の子供たちが参加する行事を企画。下呂市萩原町で町内会、PTAとともに記念植樹を行いました。

取り組みは地域のケーブルテレビで放映されたほか、中部森林管理局の広報紙の表紙を飾るなど、活動をより広く知って頂くことができました。





岐阜支部では美濃市にある古城山国有林で毎年フォレスト・サポーターズ活動に取り組んでいます。この国有林は美濃市民のやすらぎの森として活用されており、こういった街づくりへの協力は市のシンポジウムでも紹介されました。



付知支部は伊勢神宮の式年遷宮で使われるご神木が伐り出された裏木曽国有林で様々な活動をしています。左は木曾ヒノキの大木、「二代目大ヒノキ」（上右写真）を見学する散策路の整備に取り組んでいるところです。

右は地域のウォーキング行事に協力したときの写真です。国有林が様々な形で地域の宝ものとなっています。

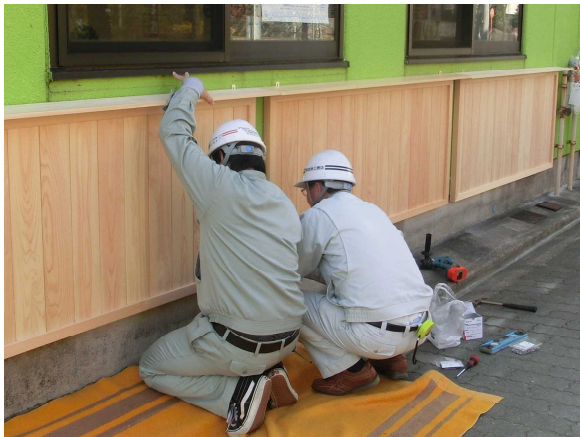


中津川支部では日本百名山のひとつ「恵那山」の登山道整備に毎年取り組んでいます。

中津川市にはリニア岐阜県駅が建設され 2020 年に開業となります。同市では開業に向け地域の活性化、雇用の確保などに取り組まれており貴重な自然財産もその一つになっています。



愛知支部では瀬戸市にある定光寺自然休養林で「みどりのフェスティバル」に協力してきました。家の新築ででたかんなくずを使ったプールは毎回大人気でした。また木とふれあう催しでは丸太切りなどに取り組んでいます。



協会の事務局は名古屋市にあり、歩道沿いに面していることから川上の情報を川下で発信する取り組みのため、東濃ヒノキで掲示板を製作しました。歩道は近くの保育園児のお散歩コースにもなっており、先生ともども賑やかに見てくれます。

4 取り組みの結果

取り組みは各支部はもとより会員企業の意識も変えることができ、毎年行われる「森林・林業社会貢献活動に進んで携わる者に対する感謝状の贈呈」制度により、局長感謝状、署長感謝状を多く授与することができたほか、会員企業では治山工事の施工にあたって、現場に木



製看板を設置しPRするなど、よりよいパートナーを目指しての取り組みが会員全体にも浸透してきました。

また、工事現場の休憩小屋に間伐材を利用する「エコe c o休憩小屋」の取り組み、木材利用の推進にも寄与することができました。



青年部も若い力でフォレスト・サポーターズ活動に取り組みました。左は中津川市で「二代目大ヒノキ」の歩道作設。右は宮脇教授が取り組む命の森づくりで豊橋国有林でも記念植樹に協力しました。

このようによりよいパートナーを目指しての取り組みは会員の意識を変え、建設業のチカラを活用した社会貢献に目を向けさせてくれました。

4 取り組みのこれから

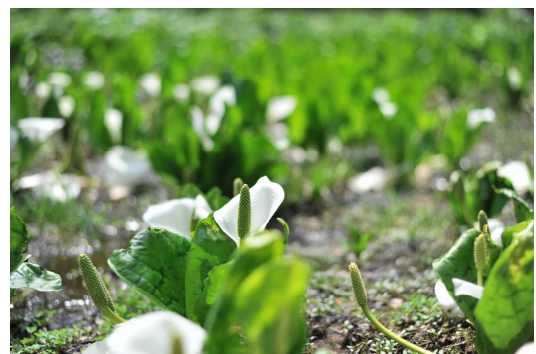
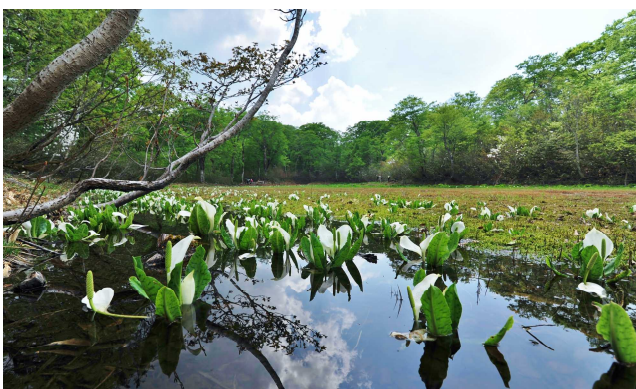
建設業は深刻な担い手不足となっています。原因は労働条件のウエイトが大きいのところですが、建設業に対するイメージが良くない面もあります。私たちは「よりよいパートナーを目指して」の取り組みが建設業のイメージアップにつながり、担い手の確保により地域の振興にもつながることを意識しながら取り組みたいと考えています。

右の写真は会員企業で働く現場技術者です。



こんなふうにイキイキとした現場環境

で国有林の仕事に取り組めるよう、これからも目的意識を持ってこの活動を続けていきたいと考えています。



岐阜県飛騨市河合町 天生国有林
天生県立自然公園 高層湿原